

明けましておめでとうございます。閉校の日まで、どうぞよろしくお願いします。

三岳小いよいよ最後の学期、3学期がスタートしました。3学期は、新しい学年への0学期と言われ、新しい学年への準備を進める学期と言われます。しかし、三岳小にとっては、ただそれだけではなく、学校を閉じるという大きな目標があります。本当に寂しい思いばかりつづける毎日ですが、子どもたちが学校に通ってくるのも51日となりました。3学期スタート時点で、本日1月23日時点では、42日です。「1月は行く、2月は逃げる、3月は去る」と言いますから、日が過ぎていくのが早いのも当たり前ですね。まずは、2月12日（日）の閉校式典を成功させねばなりません。この式典に向け、閉校記念事業実行委員会の皆様も、全力で取り組んでおられます。正門入り口に、閉校記念碑も設置されました。三岳を象徴する西岳・彦岳・震岳をモチーフにした記念碑で、校歌や学校の沿革も刻まれているそうです。早く見てみたいですね。将来、三岳小跡を訪れる皆様は、この記念碑を見る度、在りし日の三岳小学校の伝統を思い出されることでしょうか。三岳小の閉校に向け、地域の皆様・保護者の皆様、そして今を生きる三岳っ子と職員と共に、全力で頑張っていきましょう。どうぞよろしくお願いします。

3学期はいよいよ「三岳小学校閉校」です。「有終の美を飾る」をめざして頑張ります。

3学期の始業式では、閉校を意識して「有終の美を飾る」を目標として子どもたちに話しました。この言葉の語源となったのは、中国最古の詩集『詩経（しきょう）』の中にある一文、「初めあらざるなし、克く終わること鮮なし（すくなし）」という一文が語源です。これは「多くの人のは初めのうちは熱心に取り組むが、最後までやり遂げる人は少ない」という意味です。そこで、子どもたちには、三岳小最後の日まで、精一杯頑張りきろうと話をしました。この一年で大きく成長してきた子どもたちです。きっと最後まで全力を尽くし、有終の美を飾ってくれることでしょうか。



さて今回の始業式では、地域の伝統についても話をしました。小坂地区は、小坂ふるさと祭りの「雨乞い踊り」を紹介しました。ひょうたんに入った雨の種をかたむけて出し、うちわでまき散らす踊りで、室町時代から600年以上続き、昭和45年には、山鹿市の無形民俗文化財に登録されました。水神様である諏訪神社に守られた小坂地区。600年という長い年月、水を大切にし、伝統を守ってきた人々の熱い思いが伝わってきます。津留地区は、「津留井手」について紹介しました。200年以上前、5年の歳月をかけて津留井手が作られ、110haもの畑を見事水田に変え、豊かな津留地区へと変化させました。そしてその津留井手は今なお現役です。重機などなかった時代にどれだけの苦労があったことでしょうか。それを乗り越え、やり遂げられた先人の努力によって、今の豊かな津留地区があるのです。寺島地区は、「木庭満太先生夫妻の碑」について紹介しました。三岳地区は学問に熱心な地域で、明治8年の学制発布以前から私塾がありました。木庭先生は、生倫館という私塾を開き、4年制の小学校を卒業した人たちに学問を教えられました。三岳内外（三玉・平小城・山鹿・広見・八幡）からも学びに来られていたそうです。寺島に、このように立派な先生がおられたことに身の引き締まる思いです。私たちも日々研鑽の毎日を過ごしていかなばという思いになります。



おやじの会の皆様による門松づくり

おやじの会の皆様にご作成いただいた門松です。皆様、ご覧いただけただけでしょうか？子どもたちが見ることができるよう、正月明け登校するまで飾っていただきました。今年は、おやじの会OBの竹田旭様にもご協力いただきました。「門松は歳神様が地上に降りてくる際に家々を訪れる目印となり、宿る場所」と言われています。三岳小最後の年も、福の神様が立派な門松を目印においでになり、お正月中宿り、これからの三岳小を守って下さることだと思えます。準備、作成、そして後片付けまで大変お世話になりました。おやじの会の皆様、長い間、三岳小のために門松を作成していただき、本当にありがとうございました。



